

甲斐市立竜王南小学校 自己評価(前期)

平成25年7月19日(金)作成

学校長 太田 充 | 記者者 職名：主幹教諭 氏名：小西一彦

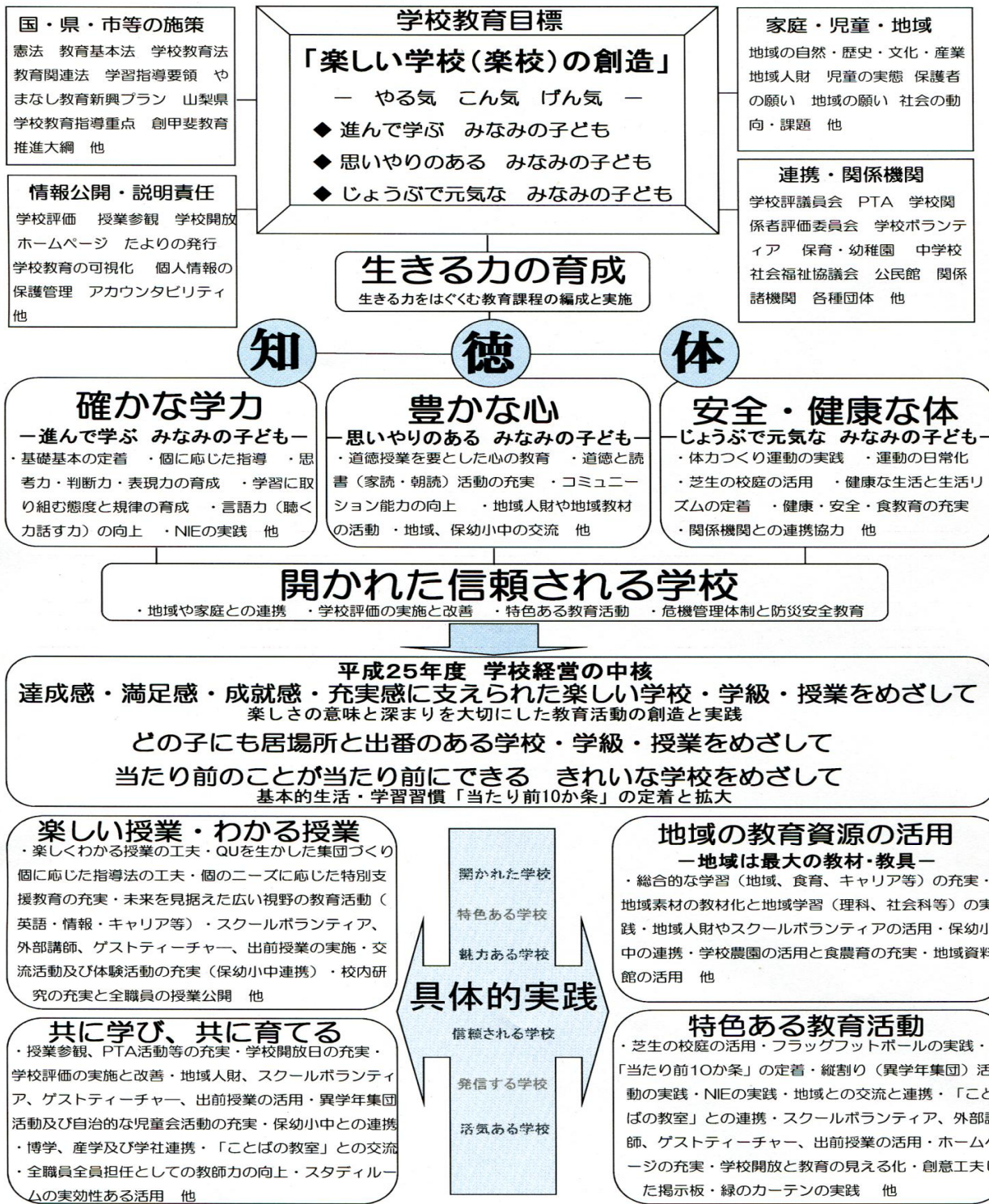
◇ 本年度の学校教育目標

「楽しい学校(楽校)の創造」 -やる気 こん気 げん気-

○ 具体目標(めざす子ども像)

- ・ 進んで学ぶ **みなみの子ども** (知育・確かな学力)
- ・ 思いやりのある **みなみの子ども** (徳育・豊かな心)
- ・ じょうぶでげん気な **みなみの子ども** (体育・健康な体)

平成25年度 竜王南小学校グランドデザイン (全体計画)



I 平成25年度 甲斐市立竜王南小学校「学校評価」の経過

日時	実施内容	備考
5月31日 (金)	・各クラスへ 自己評価及び児童用アンケート配布	・終礼にて提案 ・自己評価及び児童用アンケート配布
6月3日 (月)	・自己評価実施開始 ・児童用アンケート実施開始	
6月7日 (金)	・自己評価実施 ・児童用アンケート回収	・自己評価→終礼時に一斉に実施 ・児童アンケート→主幹の机に提出 *シートの回答者欄は必ず確認
6月12日 (水)	・自己評価送付 ・児童アンケート送付	・教育総務課集配→委託業者
7月10日 (月)	・自己評価書作成完了(主幹)	・完成した評価を校長・教頭へ提出 (監査を受ける)
7月12日 (金)	・自己評価書校内報告	終礼にて報告
7月19日 (金)	・学校関係者評価委員会開催 PM7:30- 会議室	・出席者:学校関係者評価員・校長・教頭・主幹・生徒指導主任
7月22日 (月)	・学校関係者評価書作成完了 (主幹)	・完成した評価を校長・教頭へ提出 (監査を受ける)
7月29日 (月)	・学校関係者評価書校内報告	・校内研の中で報告
7月31日 (水)	・自己評価書+学校関係者評価書 提出	・市教委提出
8月下旬 ()	・自己評価書+学校関係者評価書 HP公表(市教委確認後)	・情報担当(西川)HPアップ
8月29日 (木)	・定例教育委員会報告	

II 全体評価

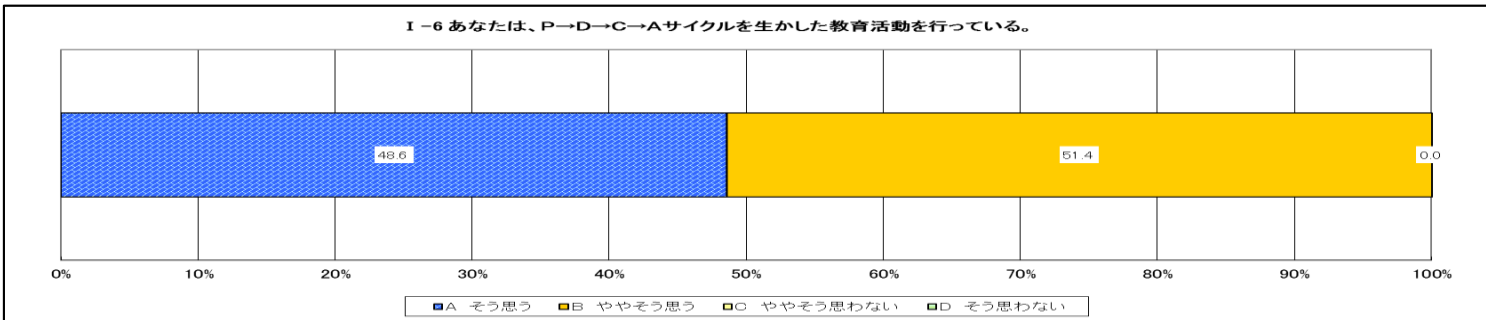
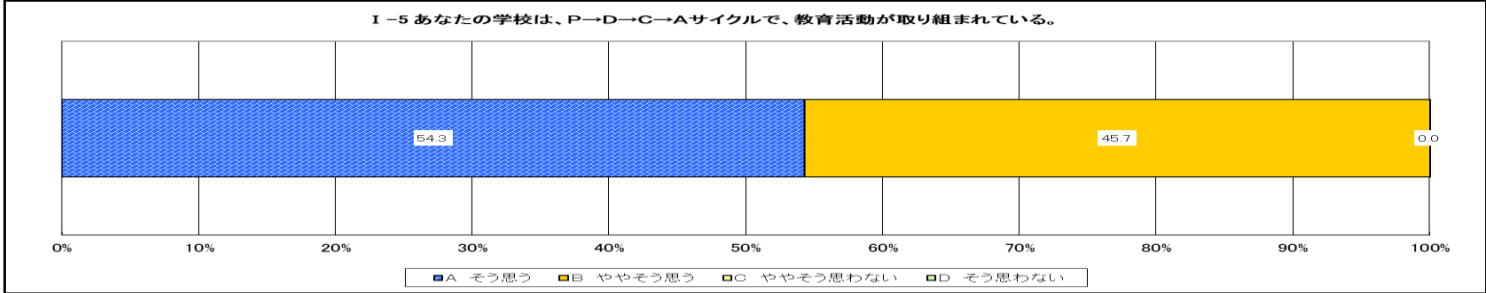
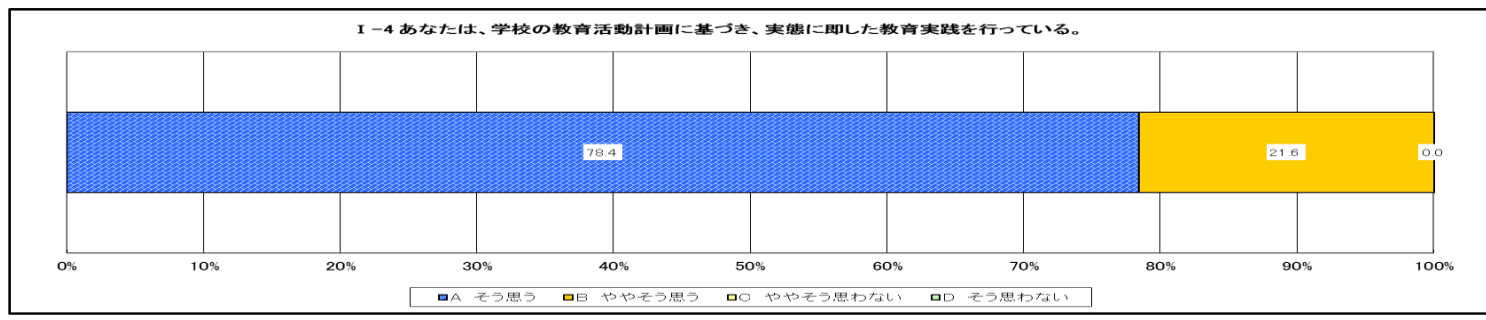
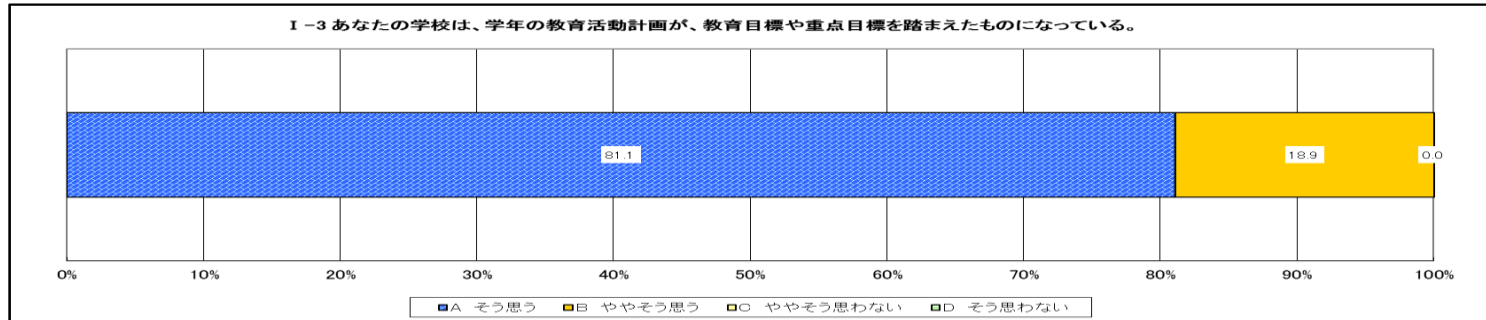
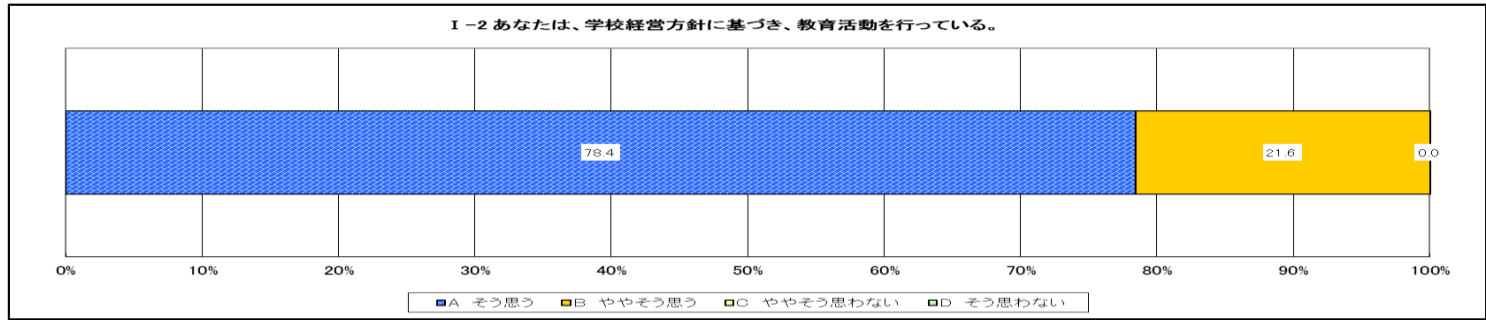
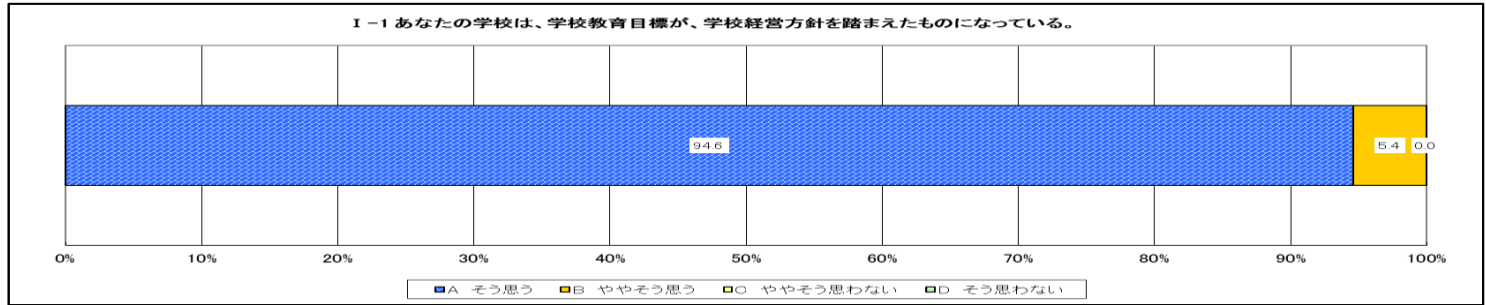
昨年度は、2学期より学校長から明確な方針が打ち出されたことにより、[子どもの出番、居場所のある学校]を目指してきたことに関して、成果が見られ始めた。Q-Uによる学年・学級経営、さらに全国学力学習調査及び山梨県学力把握調査の結果を分析し、学校全体による共通理解のもとで取り組んできた努力が形になってきたといえる。

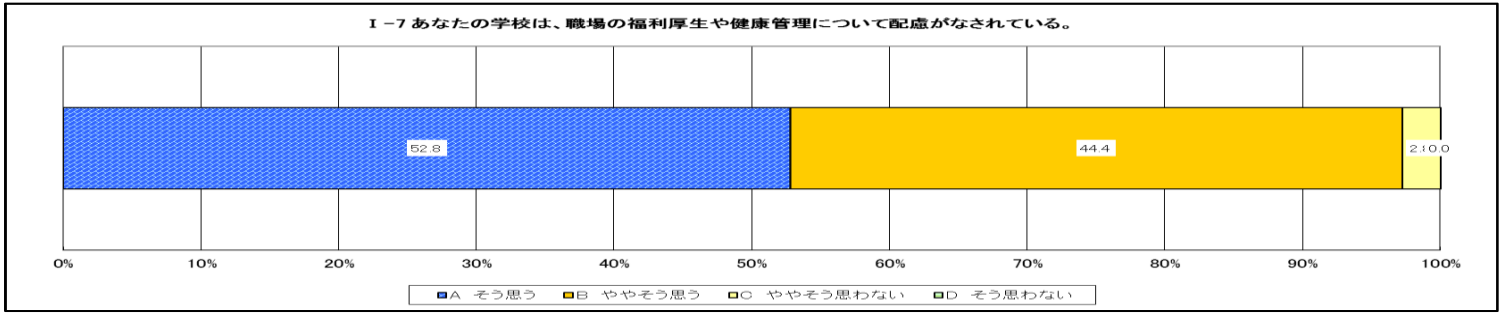
今年度は、昨年度の成果を大事にした上で、全児童全職員からアンケートを取り、学校生活で大切にしていけるべき項目を「当たり前10ヶ条」として制定した。当たり前活動できる生活を実現させるべく、全校集会、学習場面、生活場面で生活習慣の向上を目指してきた。児童アンケート結果を見ても、A+B回答で70%以上の回答を出していること、D回答も6%以下になってることから「楽しい学校生活」が送られていることがわかる。職員の自己評価を見ても、A+B回答がすべて90%以上になっている状況から見ても、学校長の学校経営方針が浸透していることがうかがえる。

2学期は、授業公開も控えており、各クラスともにQ-U分析から学級経営改善を行い、「楽しい学校」「楽しい学年・学級」を目指し、取り組むとともに、「落ち着いた、安心なクラス」を軸に、学力向上を確実に進めていく方向である。また、保護者―地域との連携を昨年度より深くし、ゲストティーチャー授業、道徳公開、学級懇談会など新しい試みで学校との距離を縮め、子どもたちを支援できる学校づくりを推進していくつもりである。

III 各項目ごとの評価

1 学校教育目標・学校経営について

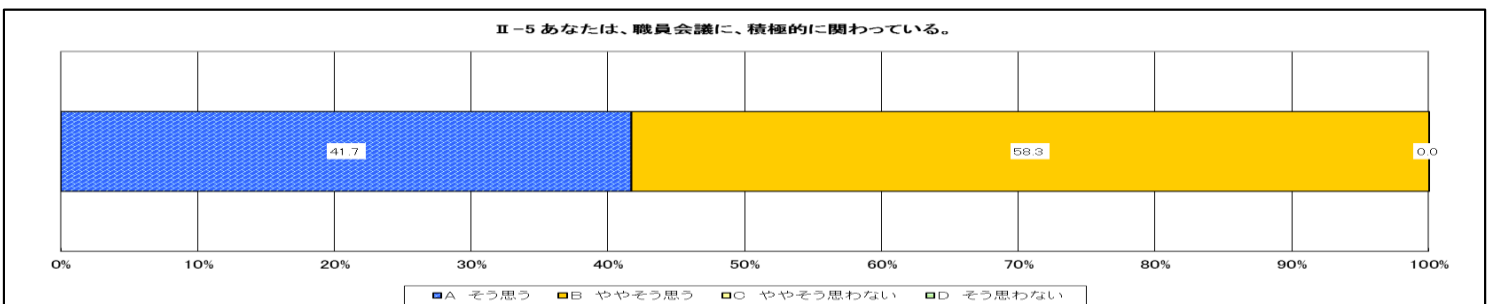
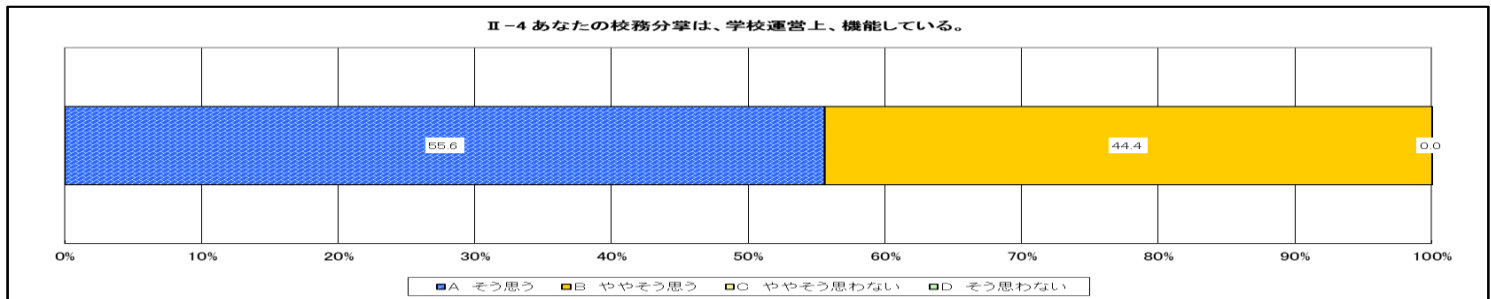
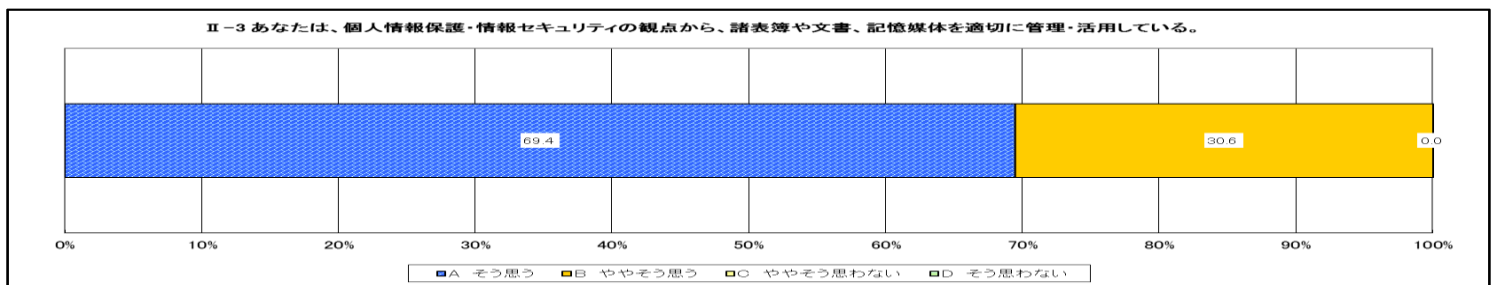
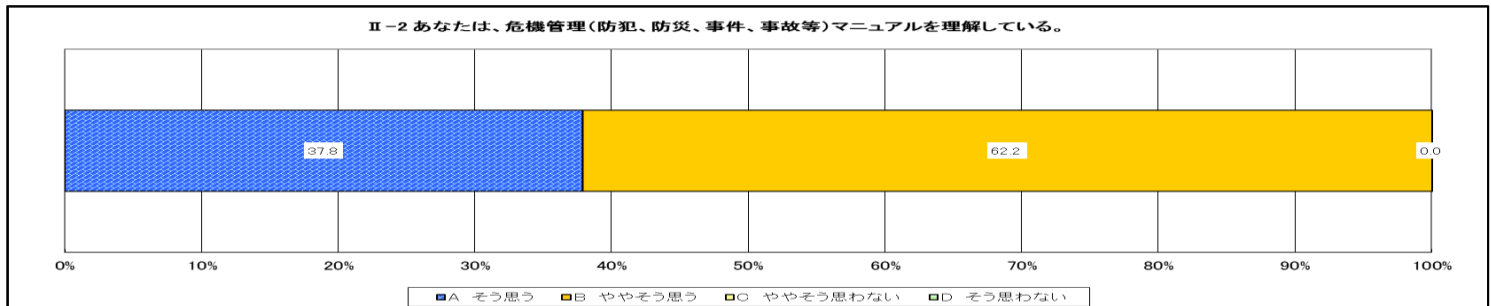
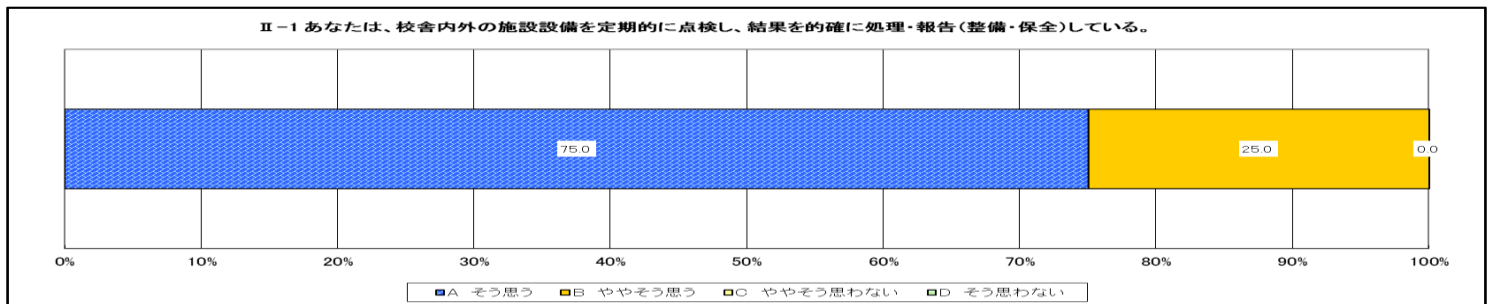


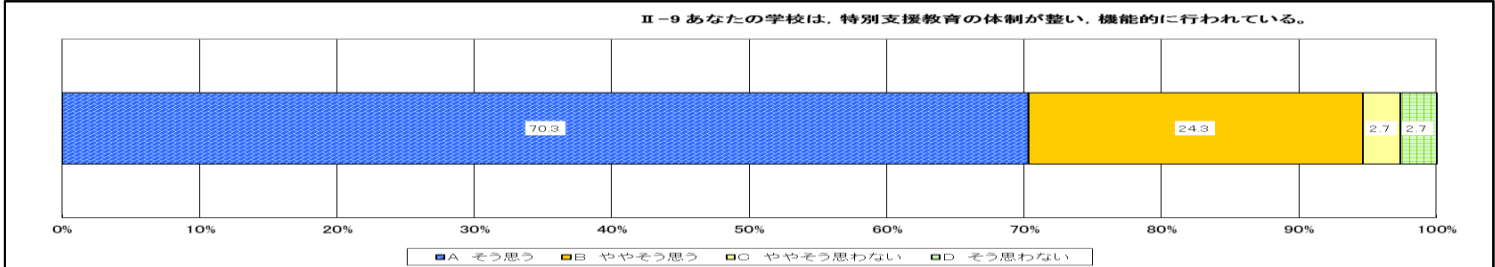
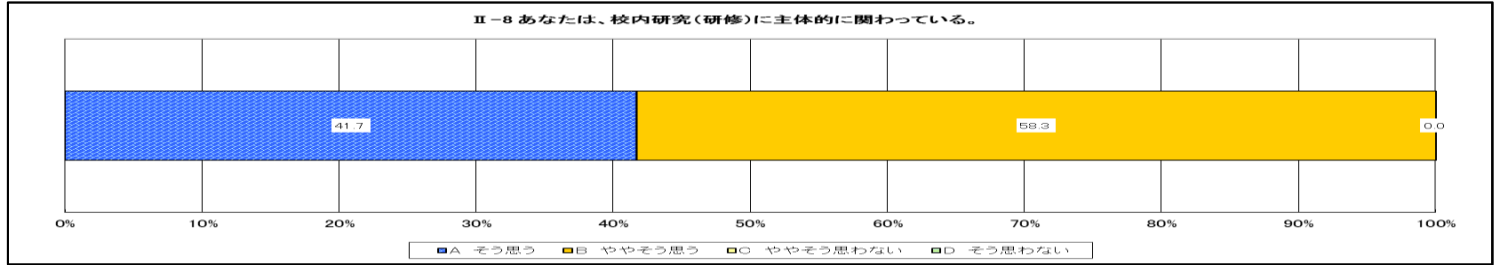
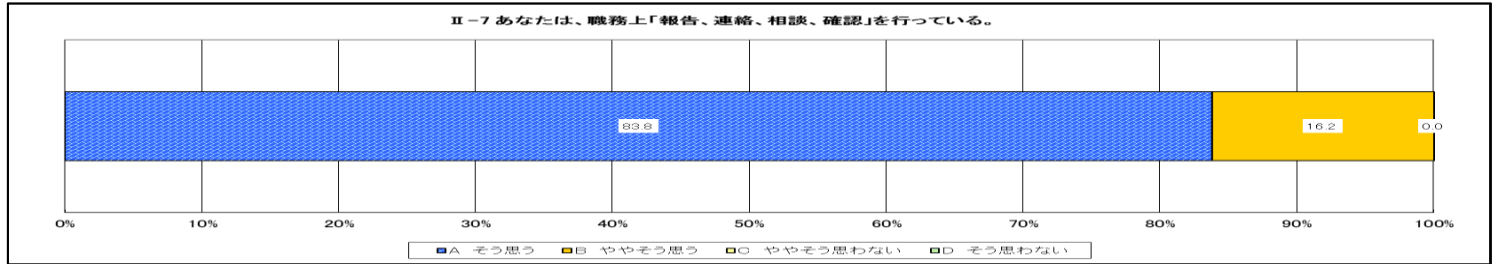
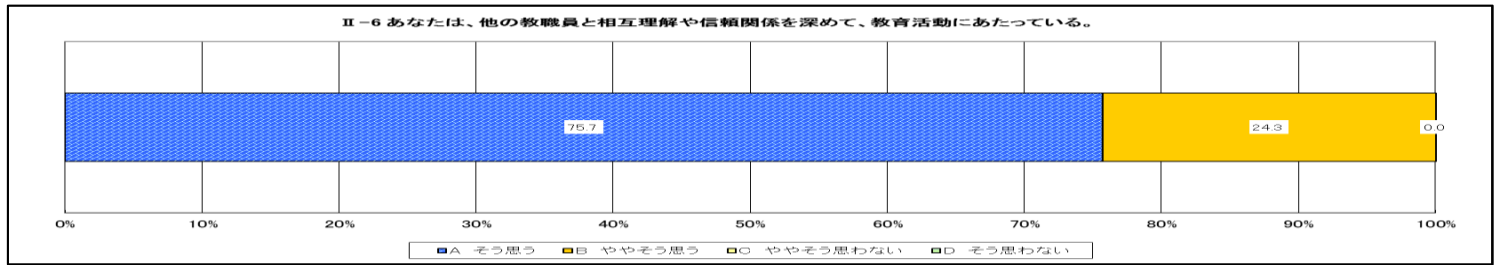


学校教育目標・学校経営については、A（そう思う）+B（ややそう思う）ですべての項目で95%以上の回答があり、これまで学校長が進めてきた学校経営方針が理解されてきたといえる。「楽しい学校（楽校）」への具体化がそれぞれの職員で実践し始めているのではないだろうか。PDCAサイクルへの意識は、昨年度に引き続き高い意識があるので、良い方向にチェンジ（改善）できる取り組みを教育活動により反映できるよう職員全体の共通理解のもと、今後も進めていきたい。

また、職員が働きやすい環境を常に維持できるように、職場全体でスタッフの意見を吸い上げながら、チームとして組織力が発揮できるよう務めていきたい。

2 学校運営について

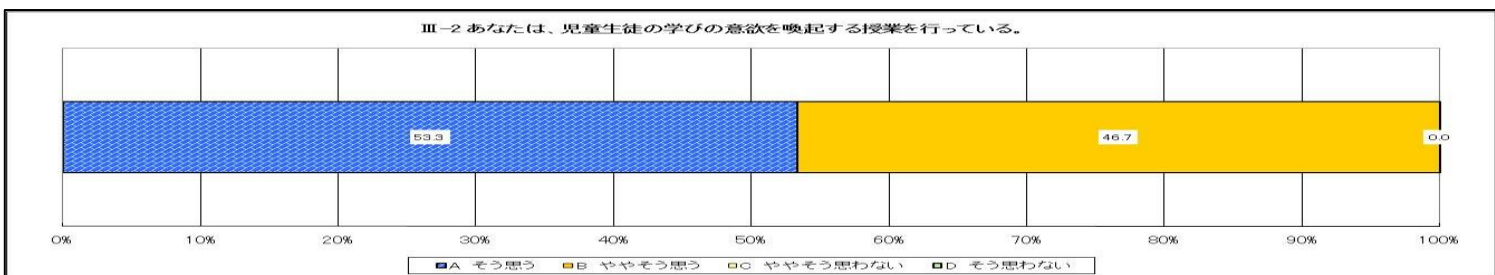
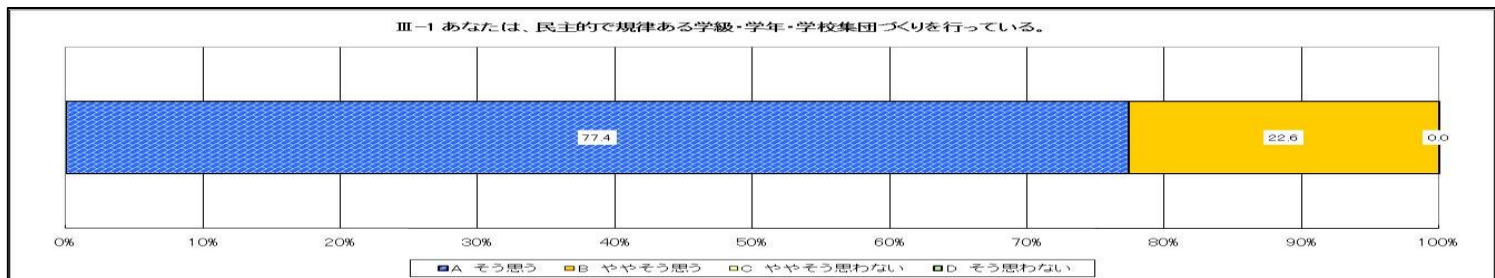


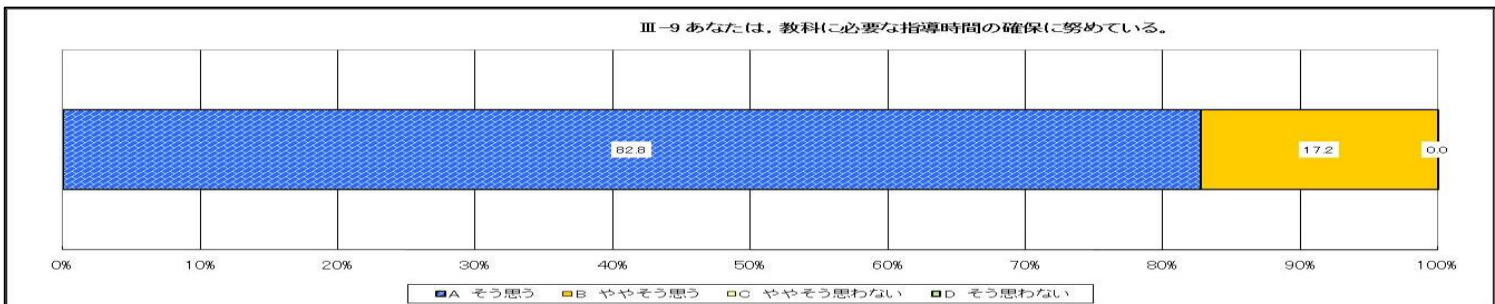
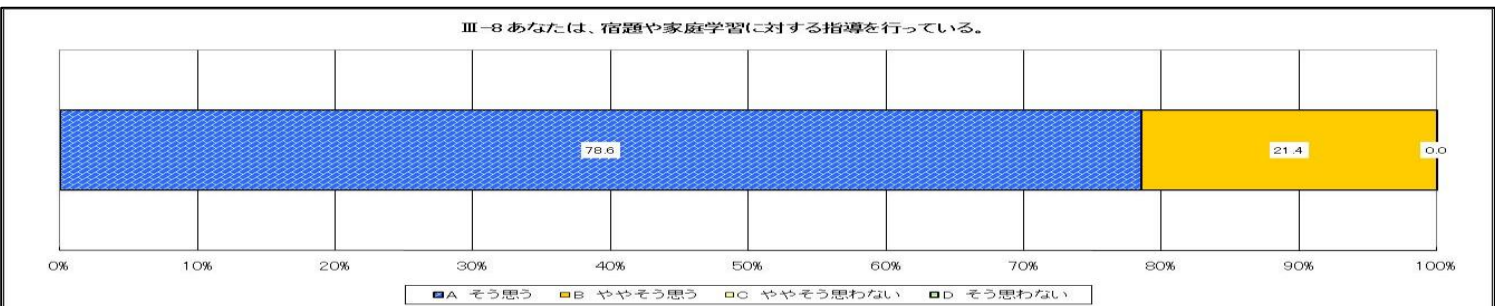
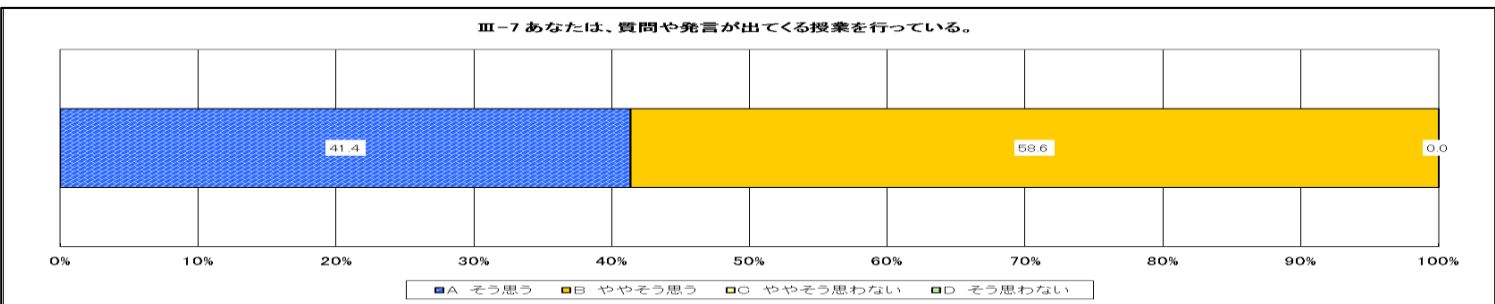
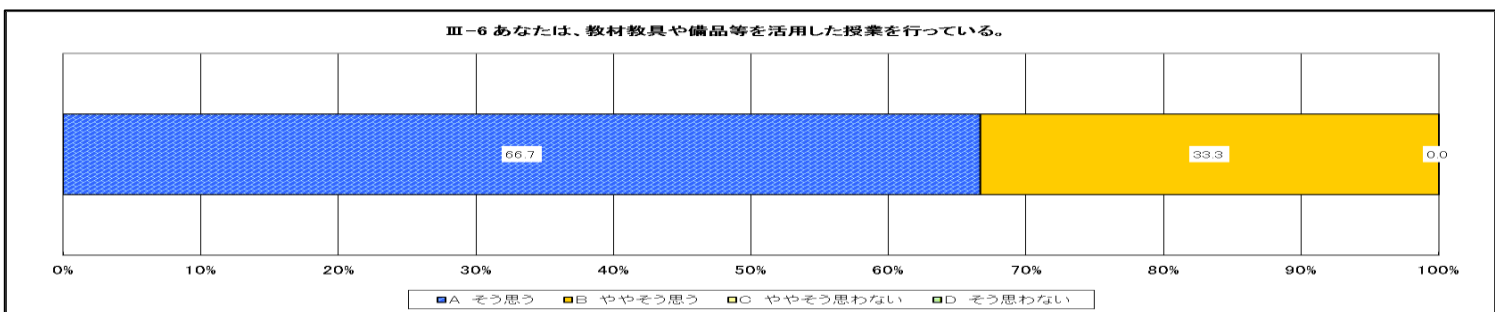
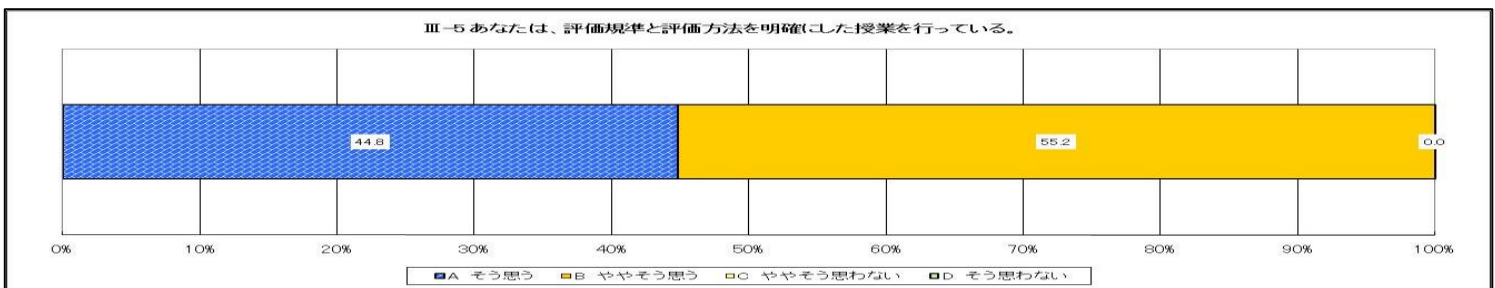
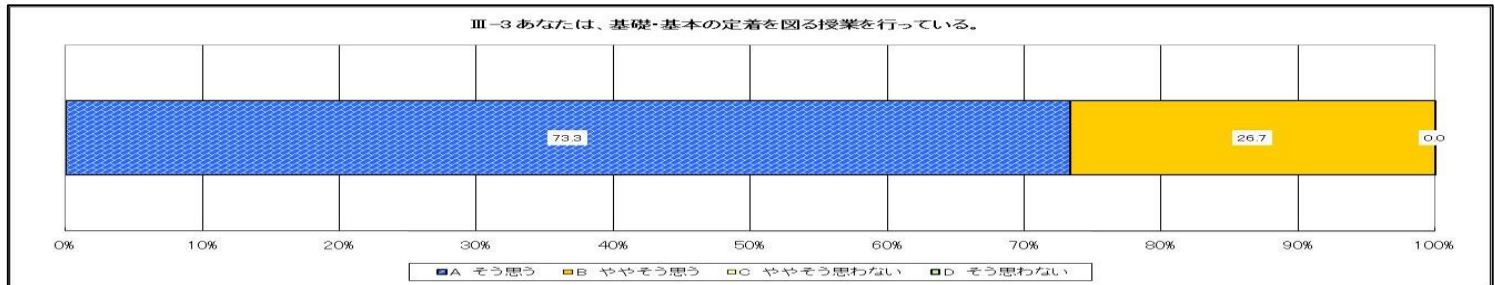
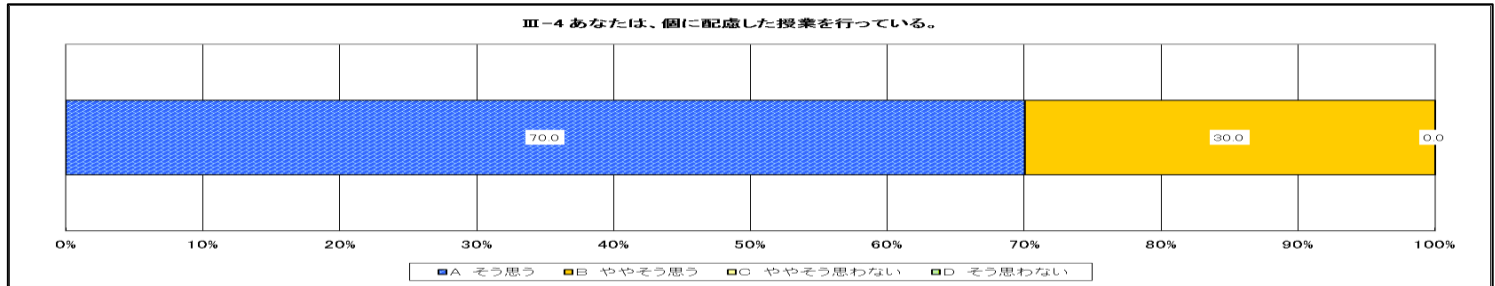


学校運営に関しても、C（ややそう思わない）+D（そう思う）に対する回答は、ほとんどなく、職員全体の意識がとても高い。今年度の職員会議で校務分掌の担当者を明確に、機能的に決定し、実際に動き出してきたこれまでの成果が如実に表れているといえる。昨年度、やや意識の低かった危機管理に関しても、常に情報を提供し、素早く、誠実に対応してきた実績が職員に浸透してきたのではないだろうか。

特別支援教育も昨年度より少しずつ職員の共通理解のもと、児童理解が浸透してきた数字になっている。生徒指導と関わりを持たせ、機関連携してきた成果が、職員の指導にも工夫が見られるようになり、児童の落ち着きにむすびついてきた。4つの特別支援学級と通級指導教室を持つ本校では、さらに交流学級とのかかわりで特別支援教育を重視していく段階になっているので、学習会を含め、情報提供、情報交換を大事にして進めていく必要がある。2学期以降、その部分への取り組みも意識していきたい。

3 学習指導について





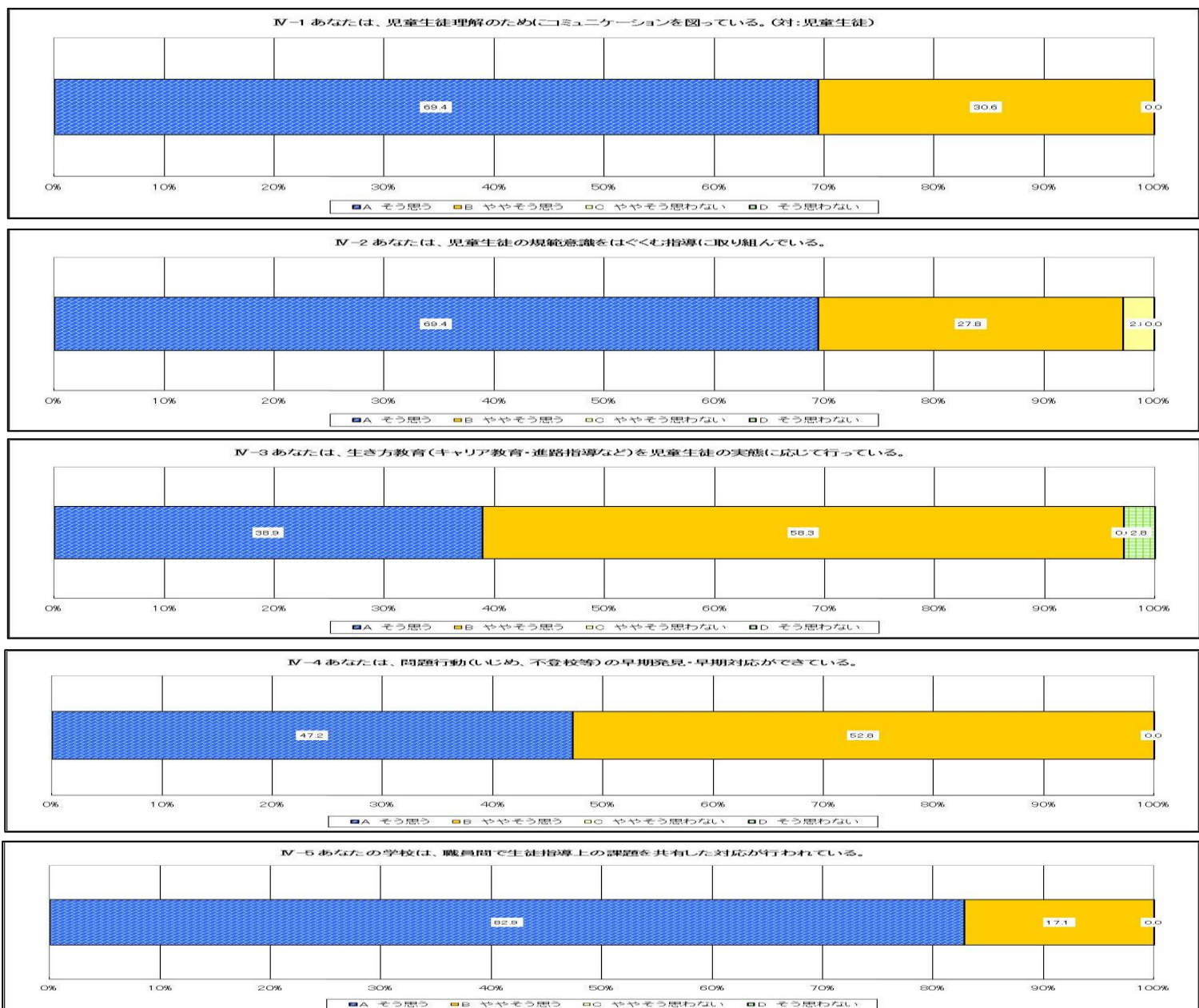
学校経営方針「楽しい学校（楽校）」に基づき、職員も学年・学級づくりに力を入れていることが結果にも表れているといえる。「あなたは、民主的で規律ある学年・学級集団を行っている。」では、A（そう思う）+B（ややそう思う）「あなたは、児童生徒の学びの意欲を喚起する授業を行っている。」の回答がそれぞれ100%となっている。それを受けて、児童アンケートのNo.1「学校は楽しいですか。」について、A（そう思う）+B（ややそう思う）の回答が95.5%となっていることから、職員の姿勢が児童の気持ちにつながっていることがよくわかる結果となっている。

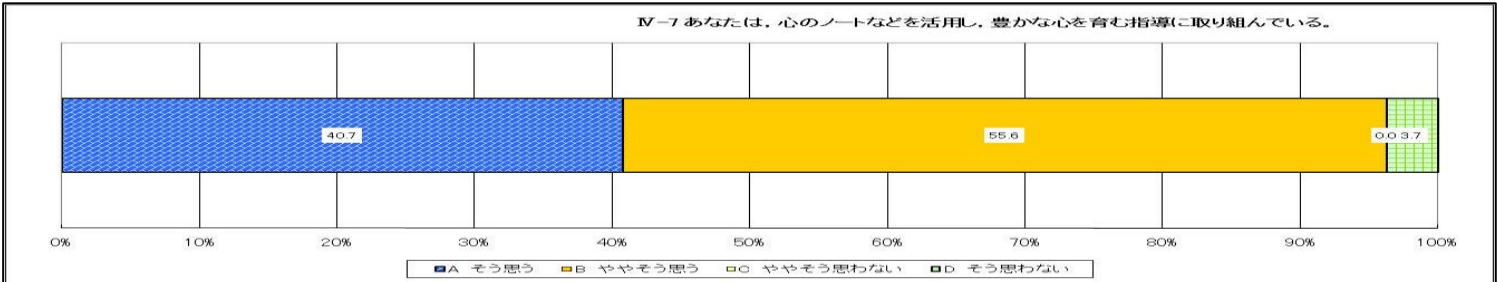
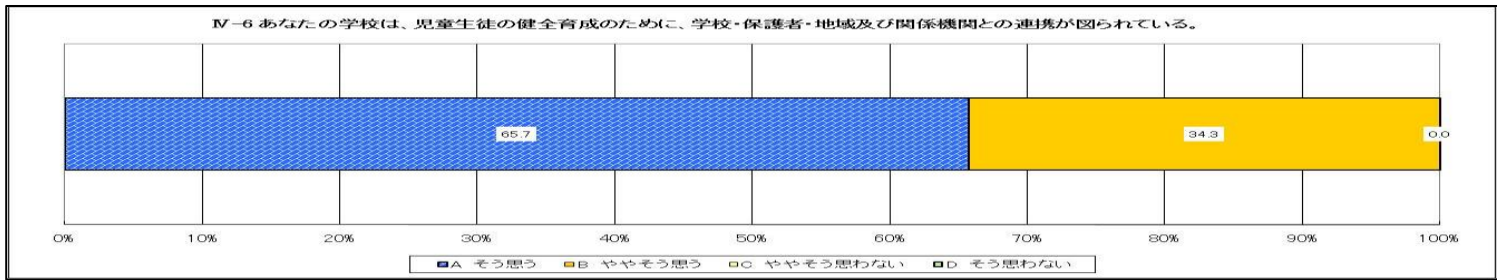
課題とまでは至らないが、「あなたは、質問や発言が出てくる授業を行っている。」では、A（そう思う）41.4%、B（ややそう思う）58.6%で、A回答率が学習指導では、一番低くなっている。児童のアンケートNo.10「授業中に質問や意見を言っていますか。」に対して、A（そう思う）+B（ややそう思う）71.1%、C（ややそう思わない）では、22%、D（そう思わない）は6%という結果が出ている。昨年度も児童の質問や意見に対しては、同様な結果が出ていたので、意識的に児童が答える授業を仕組んでいく取り組みも必要ではないかと思われる。Q-Uによる学級分析から、話し合いやすい環境作りを進めていくことと、同時に取り組んでほしい。

「あなたは、宿題や家庭学習に対する指導を行っている。」では、A（そう思う）+B（ややそう思う）の回答が100%となっており、職員の努力が伺える。家庭学習は、新学習指導要領の中でも、重点を置く内容となっているだけに、児童アンケートでも、「宿題を忘れずにしていますか。」ではA（そう思う）+B（ややそう思う）の回答が86.1%、「月曜日から金曜日までは、学校以外で学年の目標時間の勉強をしていますか。」A（そう思う）+B（ややそう思う）の回答が78.3%という結果が出ている。さらに、「月曜日から金曜日までは、家や図書館などで、一日あたりどのくらいの時間、読書していますか。」では、10分以上の読書時間が74.3%となっている。児童の学習状況を見ても、教師の指導が着実に、形となって表れているといえる。

教師の指導工夫が、児童に反映されているだけに、2学期以降も学年・学級経営を軸に、学習指導の工夫を積み重ね、楽しい学校の具現化を図っていきたい。

4 生徒指導について





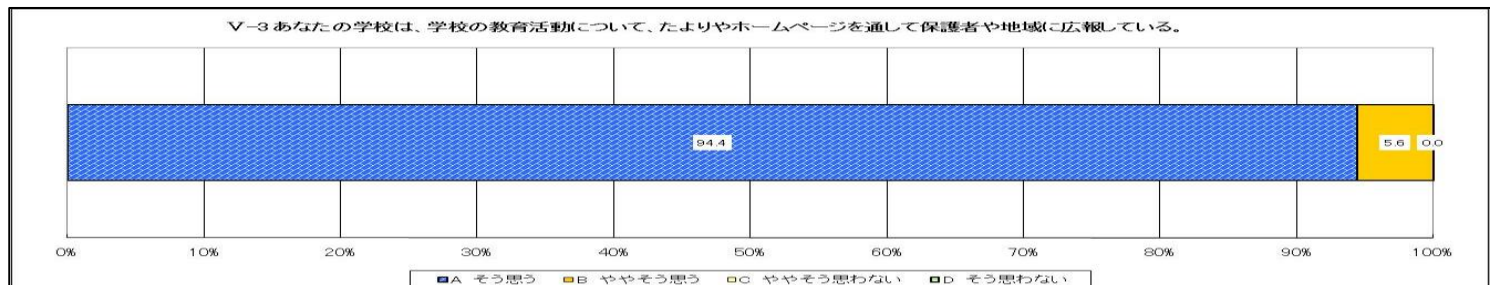
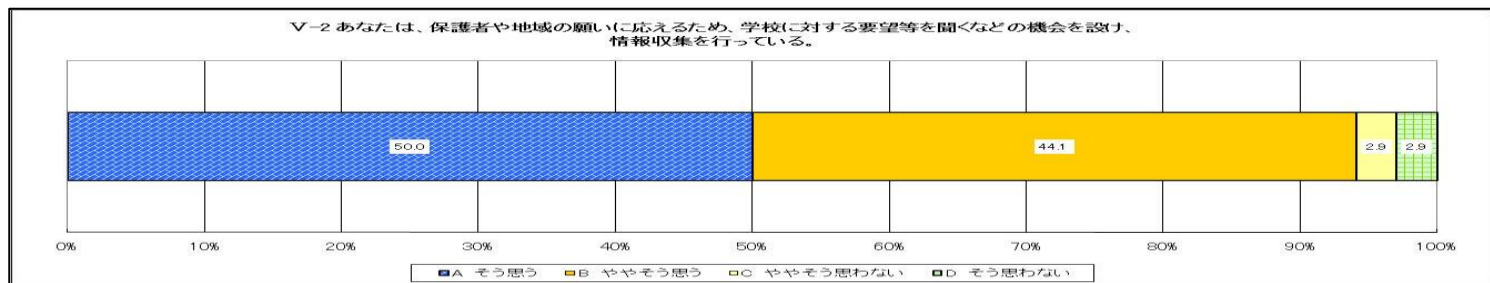
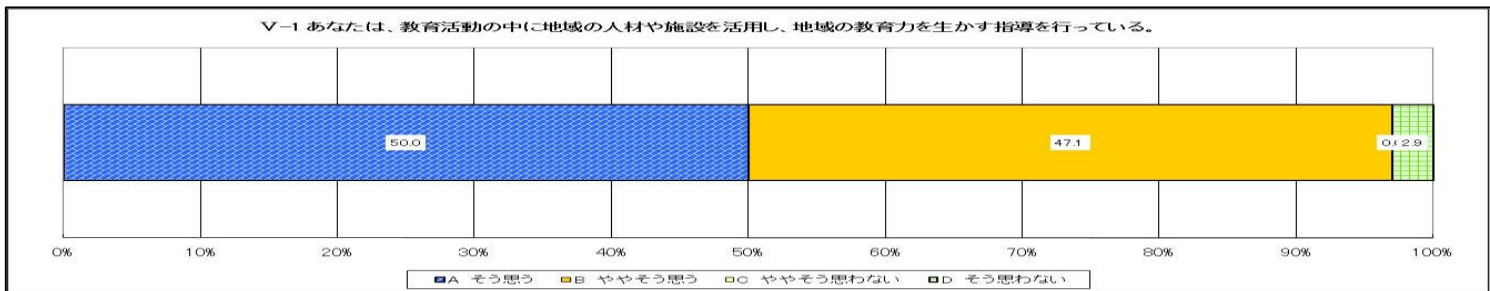
生徒指導では、どの項目も、A（そう思う）+B（ややそう思う）で96%以上の回答が出ている。昨年度より対処的な指導より未然防止を重要視した積極的な生徒指導に変換してきた取り組みが、徐々に浸透し始めてきたのではないだろうか。家庭の課題、児童の特性を重視し、子どもや保護者の困り感を共有できるようになり、指導の成果が出たことにより、職員の共通理解が様々な場面で発揮されるようになってきたといえる。

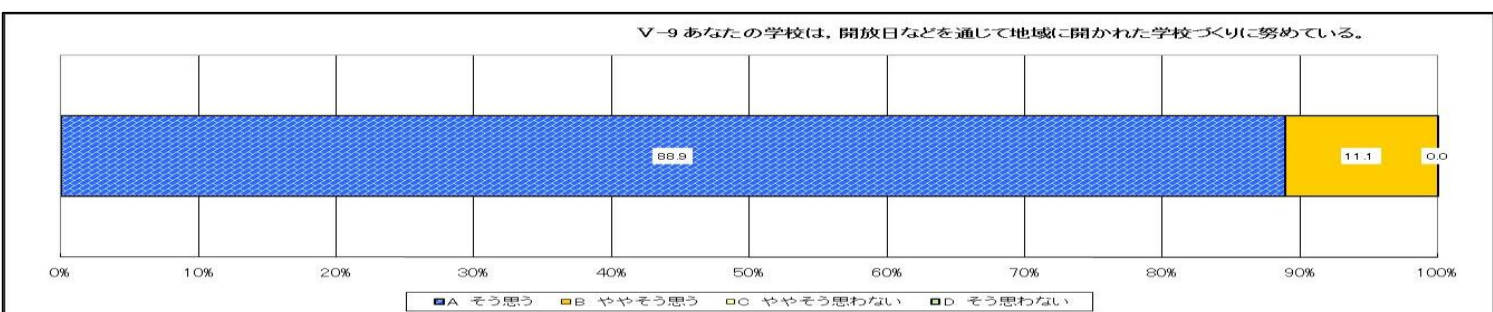
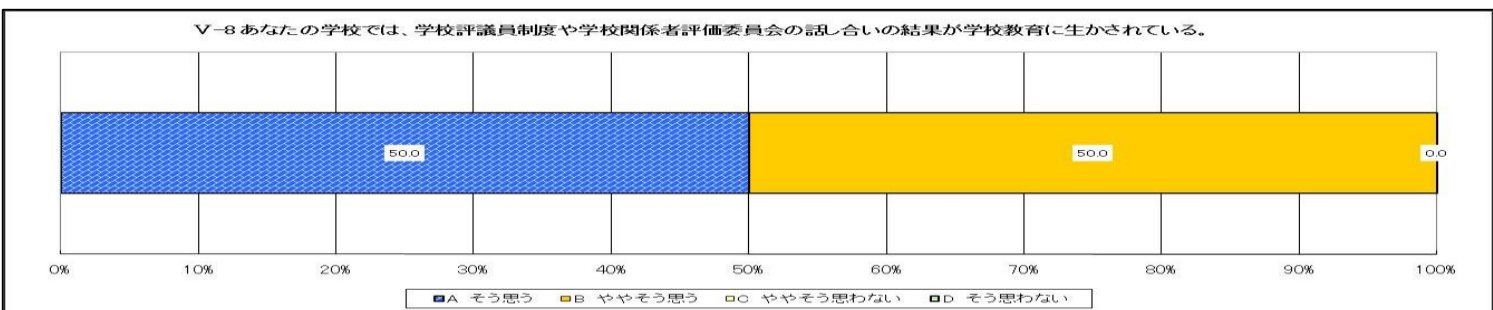
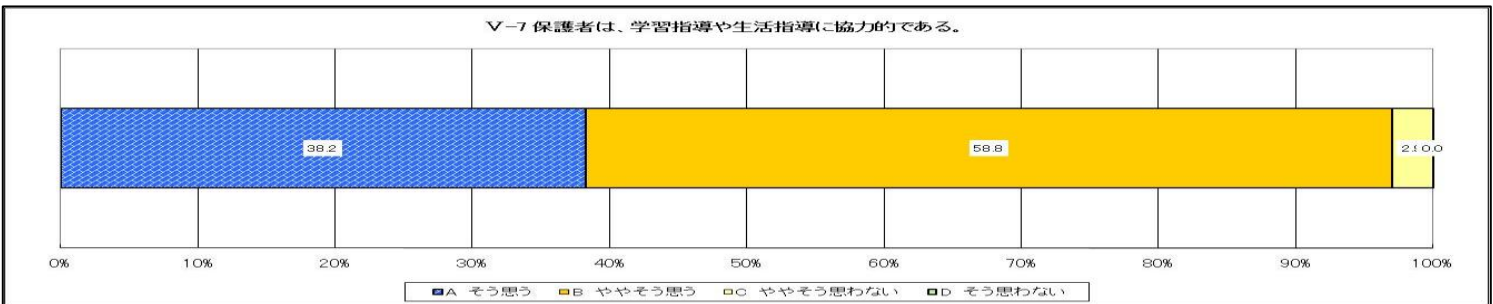
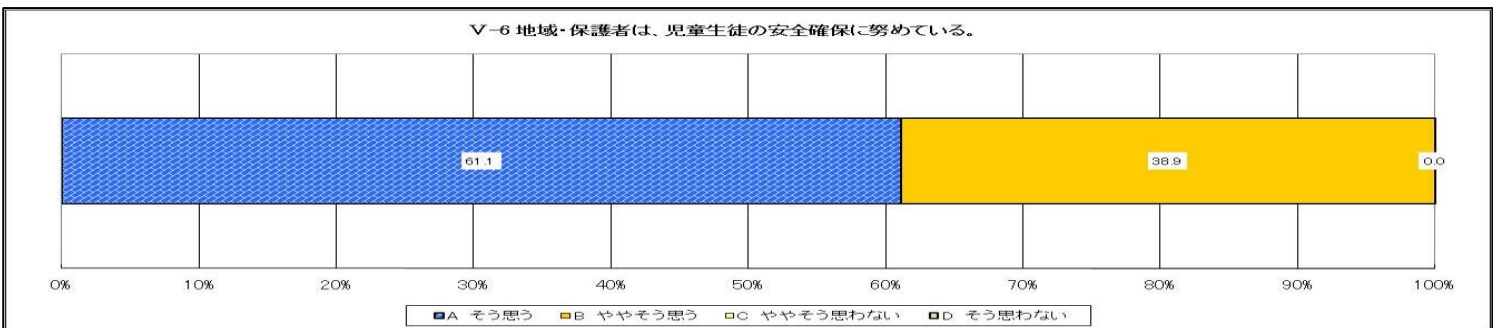
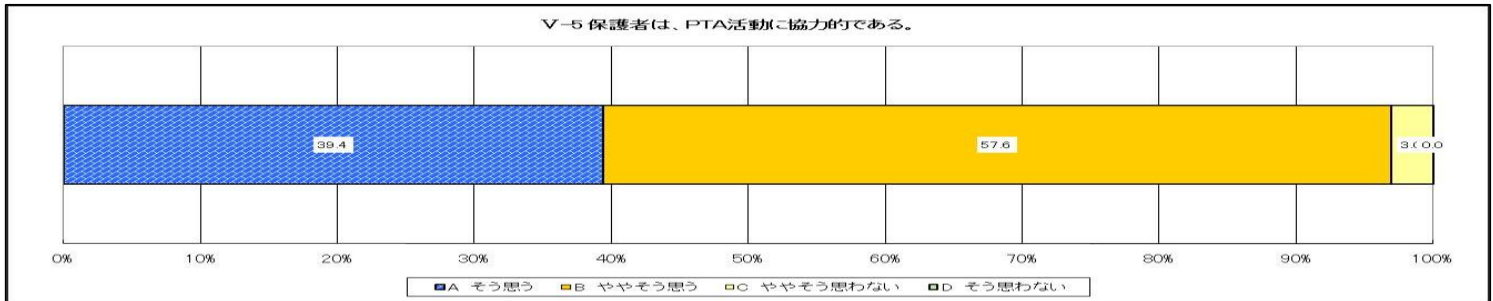
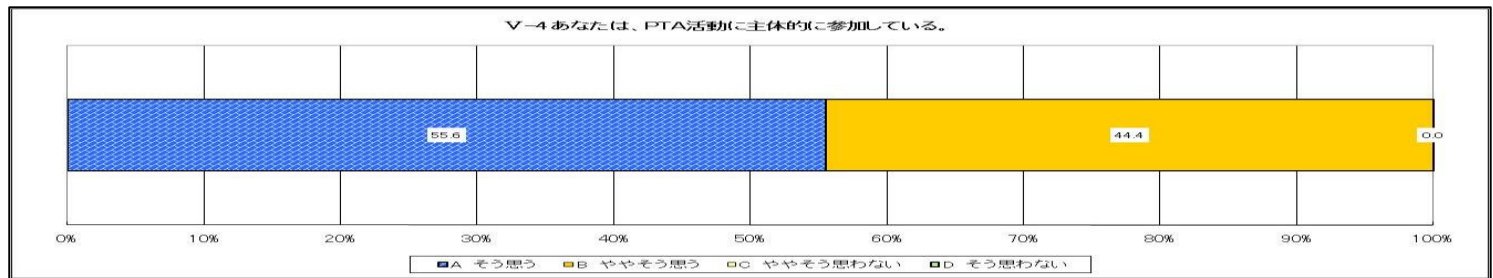
児童の特性や家庭の課題を共有するために、特別支援教育も含めた生徒指導・特別支援教育委員会（通称：生特委員会）の発足もより指導方針を明確にさせたのではないだろうか。その中で、関係機関と連携した指導が行われ、成果を上げたことも大きな収穫であった。

積極的な生徒指導をさらに、進めるために、今年度は道徳授業参観日を設けて、全学年道徳授業を推進し、その後開催された学級懇談会では、道徳を中心に、さらに幅広く学校-家庭の問題を話し合うなど保護者との連携にも力を入れてきた。

こうした取り組みを今後も続け、未然防止に向けた指導を徹底していきたい。

5 地域との連携について



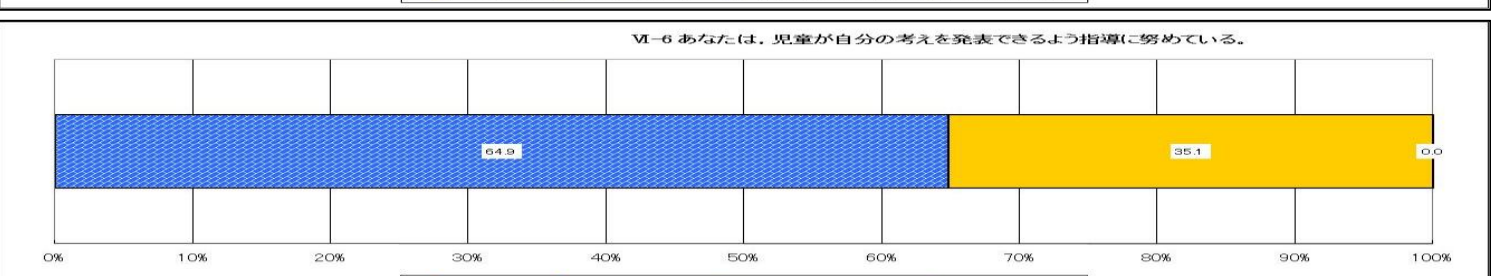
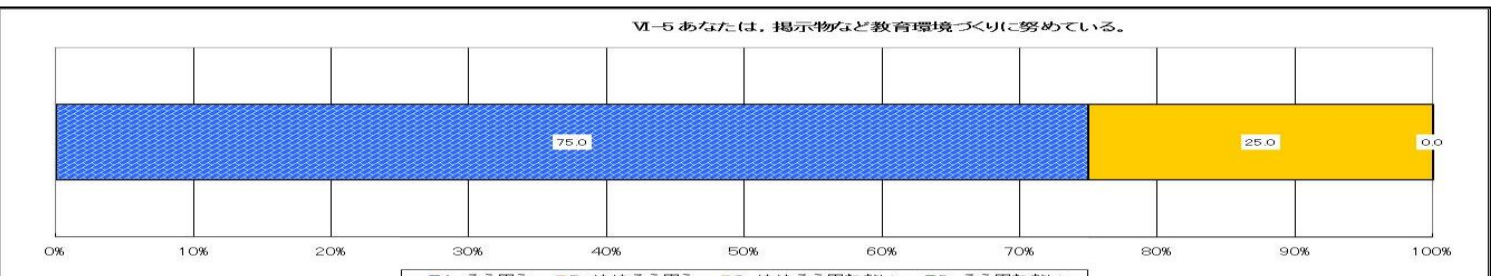
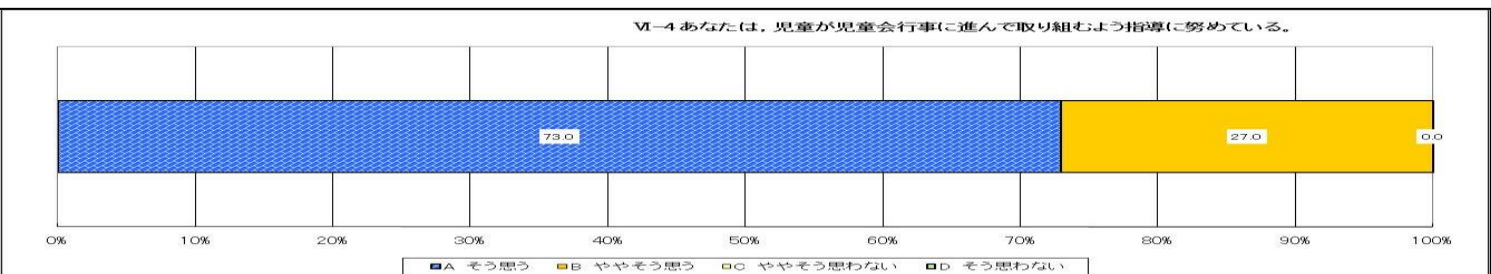
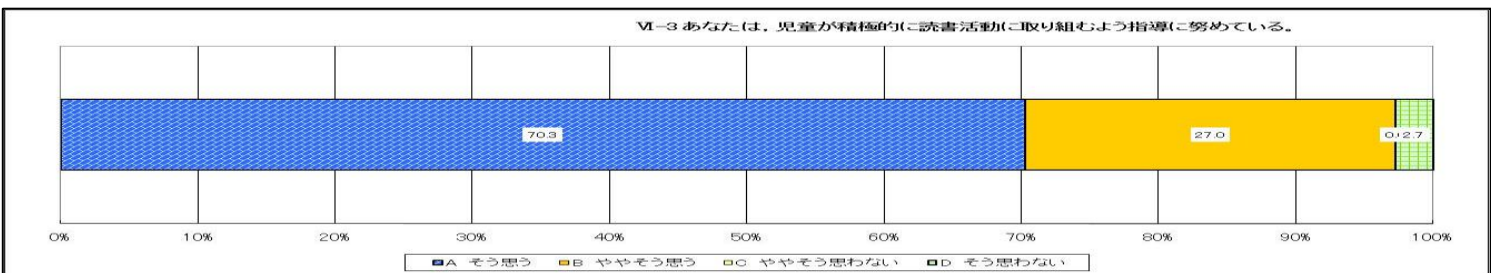
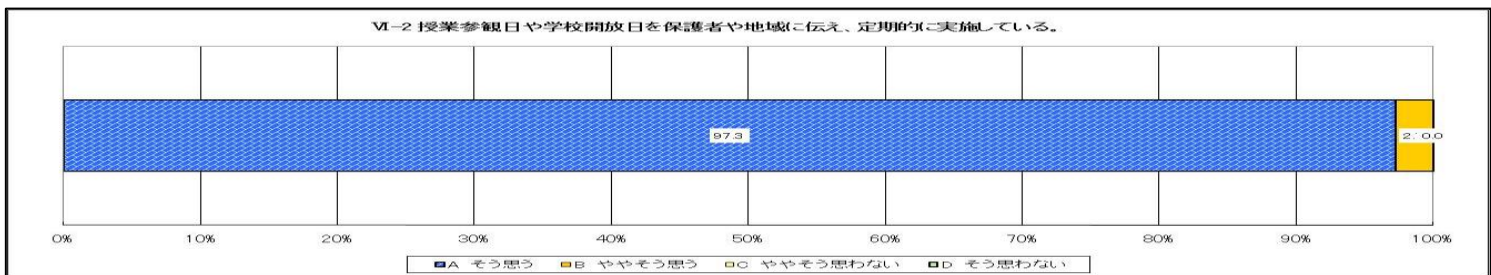
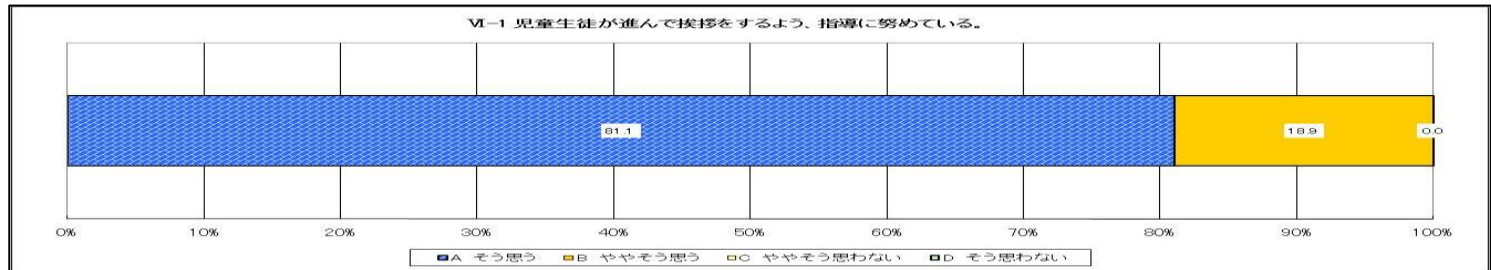


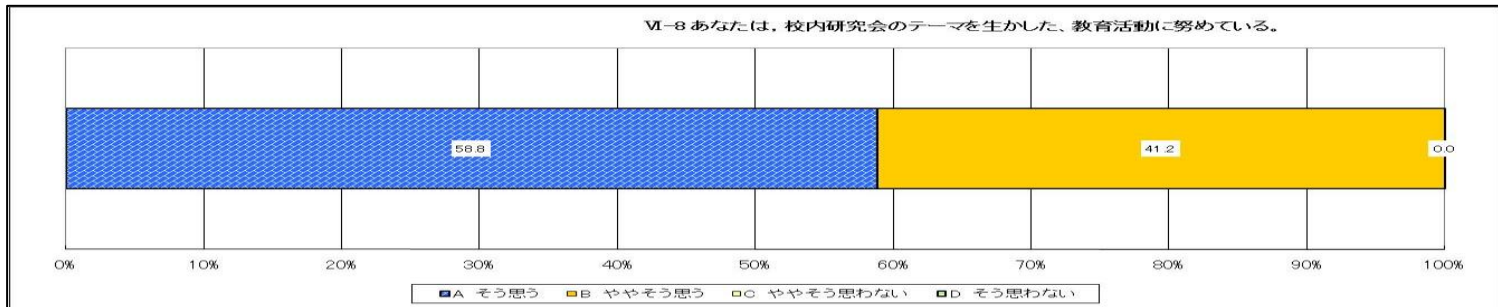
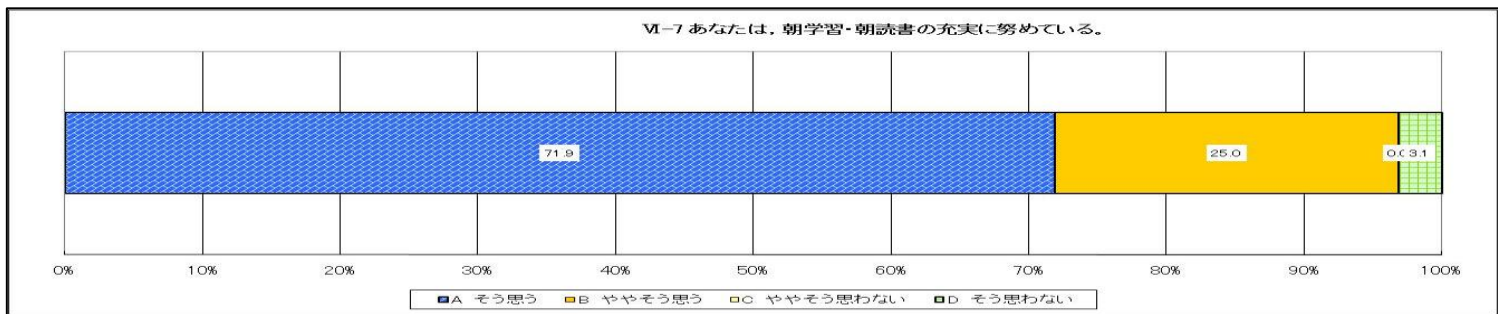
地域との連携についても、A（そう思う）+B（ややそう思う）で97%以上の回答が出ている。職員の連携への意識が高まりつつあるといえる。昨年度の運動会、早朝作業などの保護者の協力、更にシルバー人材や交通安全協会などの学校への協力体制が、意識を変えてきたと思われる。

保護者や地域の要望に学校全体が、素早く、誠実に対応するという姿勢が一人ひとりに芽生え、保護者も快く協力してくれる体制ができあがりつつある。学校側も、HPを、ほぼ毎日更新を行い、閲覧者数も7000以上増え、情報発信をすることで、PTA活動、安全指導などにも影響を与えている。

保護者や地域の方々が、常に学校に目を向けていただけるように、「毎日が開放日」というスタンスで、年間で月に1度、授業参観や相談、行事を計画的に予定し、気軽に来られるように改善したことが良い方向にきている。職員の意識も、VI-2「授業参観日や学校開放日を保護者→地域に伝え、定期的実施している。」に対して、A（そう思う）97.3%と回答しているだけに、意識も高まりつつある。2学期以降も連携を深められる体制づくりに努めていきたい。

6 学校の特徴に関して





今年度の校内体制や努力目標に目を向けて、設定した項目である。当たり前10か条に基づき、あいさつ運動も進んで行う児童が増えてきた。児童アンケートNo.24「学校であいさつしていますか」A（そう思う）+B（ややそう思う）で91.2%の回答が出ている。児童の意識を見ても、生活習慣の改善の1つとしてきた施策が効果を上げ始めている。

秋の公開授業に備えて、Q-Uによる分析を取り入れ、学年・学級経営、さらにそこから反映される学力向上対策を全校体制で進めている。No.8「あなたは、校内研究会のテーマを生かした教育活動に努めている。」に対してA（そう思う）+B（ややそう思う）で100%の回答が出ている。一人ひとりが研究に向き合おうとする強い意思を感じる。校舎内の美化、業前学習の充実など日々の取り組みについても、No.5「あなたは、掲示物など教育環境づくりに努めている。」に対してA（そう思う）+B（ややそう思う）で100%。No.7「あなたは、朝学習・朝読書の充実に努めている。」に対してもA（そう思う）+B（ややそう思う）で96.9%の高い回答が出ている。職員の意識が前向きに子どもたちに向き合おうとしていることがわかるデータになっている。2学期は、これらの意識を確かな実践になるように組織として努めていきたい。

IV 児童アンケートから気になる部分について

気になる項目 D（そう思わない）=10名以上（約3%以上の回答）

No.3 「困ったことがあったら、相談できる友達がありますか」3%

No.8 「授業（勉強）でわからないことがあったら、先生に聞いていますか」3.8%

No.9 「こまったことがあったら、相談できる先生はいますか」2.8%

No.11 「宿題を忘れずにしていますか」5.3%

No.12 「月曜日から金曜日まで、学校以外で学年の目標時間の勉強をしていますか」6.2%

No.18 「月曜日から金曜日まで、家や図書館などで、一日あたりどのくらいの時間読書を読みますか」

F（まったくしない）15.0%

No.19 「将来の夢や希望を持っていますか」4.7%

今回、D（そう思わない）回答に目を向けて、抽出してみた。少人数ではあるが、決して見逃してはいけない数字だといえるからである。確かに、全体的に自己評価の意識は、高まりつつあるが、決して奢らず児童一人ひとりを大切にしていくという視点を大切に、日々の実践を進めていきたい。

「なぜ、そう思わないのか」を検証し、工夫して、改善していく取り組みが、一人ひとりの児童の安心につながることになる。チームとして、「気になる子」の情報交換、生特委員会での確認、校内研究会など組織として、児童を見つめる機関があるので、有効な手段となるよう、今後も努力を続けていきたい。